

軽米町百人委員会平成28年度第1回高齢者いきいき部会議事録

○開催日時：平成28年6月2日（木）午後3時30分～午後5時15分

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

○出席者

委員：18人中15人出席（泉山毅、田頭トヨ子、福田實、中舘ミヤ、浅水かつ子、菅原皓文、平邦雄、工藤敏直、千葉エイ子、田中ヌエ子、古里素祐、板橋義男、野中元榮、宮川榮吉、君成田美代子）

事務局：町民生活課 中野 福田

健康福祉課 坂下

総務課 日山 梅木 小笠原 山舘

○開会

（町民生活課長）本日はお忙しい中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。定刻となりましたので始めさせていただきます。本日の議題、話し合ってください内容になりますけれども、今年度の部会の協議事項の決定、第2回部会の進め方と開催日時の決定等についてということになりますのでよろしくお願ひしたいと思います。それでは部会長のほうからご挨拶をお願いしたいと思います。

○部会長あいさつ

（部会長）皆さんどうも、大変ご苦勞様です。今年度の第1回目ということでございます。去年は2回行いまして、ついこの間の4月27日、百人委員会の代表者会議ということで、部会長と副部会長が集まりましていろいろと相談したんですけれども、簡単に言いますと、今年度の進め方についてどうしましょうかということの打合せでした。それが今日出てきているわけですけれども。今年は3回行うようで、その3回目には町長さんに私たちの部会ではこういうことを提言しますよということをもとめていくそうです。そういうわけですね、皆さん去年はそれぞれ意見を出していただいたわけですけれども、これからどうしていったらいいか、方向性をどのようにしていけばいいか、そのことについて協議いただければよろしいのかなどそのように思います。大変難しいとは思いますが、担当課のほうからも資料なども出していただければと思いますので、それらも参考にいただければと思います。

（町民生活課長）ありがとうございました。ということで議事のほうに移らせ

ていただきます。議事のほうの司会進行につきましては、部会長のほうから進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○議事

(1) 今年度の部会の協議事項の決定について

(部会長) それでは議事のほうに入らせていただきますが、資料にありますように(1)今年度の部会の協議事項の決定についてということで、次のページを開いていただきますと、テーマの決定、テーマについて(案)ということについていますよね。これが今日の主題になろうかと思っておりますのでよろしくお願いします。まずは前回話し合ったところでこれからのテーマを決めよう、自分たちでできること、みんなでできること、行政ができることを分けながらというとなかなか難しいんですが、今年度私たちがどういった方向で進むのかというテーマを決めましょうというのが今日の大きな目標だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。そしてここを見るとテーマの(案)として①老人クラブの活性化について、②高齢者のための交通網の整備について、③高齢者の集える場所の確保、④他市町村との交流はどうあればいいか、というのを資料として担当課のほうから出していただきましたので、このことを中心にすればいいのか、あるいは皆さんから私はこういうのがいいと思ひますというのがあれば出していただければと思ひます。今年度考えていく、町長さんに提言まで持っていくテーマをどのようにしていったらいいのかなというご意見をいただければと思ひますが、いきなりこうだ、というズバッとしたものを出すのは大変難しいと思ひます。ですから、様々な意見を出していただく中で、だんだんに絞っていけばいいのかなと思ひますので、ざっくばらんはどうですか、どんなことが高齢者いきいき部会のテーマにしていけばいいのかご意見をいただきたいと思います。大変難しいと思ひますが、よろしくお願ひします。

(町民生活課長) はい、あの事務局のほうからも少しご説明したいと思ひます。事務局のほうからのテーマ(案)として今委員長のほうから説明がありましたけれども、4つ。老人クラブの活性化、高齢者のための交通網の整備というのは高齢者の移動手段ということになるかと思ひます。あとは集まる場所とか、他市町村の老人クラブ等との交流などが、これまでの意見を取りまとめた中で事務局の案として並べております。それ以外に皆さまの方から何かありましたらと思ひまして提案させていただきました。

(部会長) 分かりました。これは、今まで皆さんから出された意見が、意見提言等のところに書いてありますよね。その中からまず出したものですよと、

それ以外のところからも出していただければ、ということだそうです。どうでしょうか。

(委員1) 例えば、行政ができることというのはどういふのですか。

(部会長) これから私たちが様々な意見を出す中で、これは行政ができますよね、これは私たちができますよね、これはみんなで協力していけばいいですよ、というふうに分けていけばいいと思うんですよ。行政ができることというのもたくさんあると思うんですが、最初から行政がやるのはこれで私たちがやるのはこれでというのとはパッと出てこないんじゃないかと思うんですよ。

(委員2) 老人クラブはもう大変減っていましたよね。旧晴山はもう観音林だけだと思います。私は、百人委員会の高齢者いきいき部会というのは、私たちが高齢者の立場でいかに軽米町にお手伝いできるか、そういうのを進めていく会かなと、そう思っていました。前回までの話では、高齢者がいきいきしていくためにはどういったことが必要か、そういうのを話し合っています。それも大切だけでも、私たちができることを考えていくというのも大事だと思うのですが皆さんどうでしょうか。

(部会長) というご意見でした。私たちがいきいきしていればそれでいいんだよというのではなく、私たちがいかに町の力になりうるか、高齢者の立場としてですね。町のために私たちがいかに役立っていくかという、そのためにはどうすればいいかということですね。

(委員2) ただ健康でいきいき暮らすということも、それだけでも医療費の削減だったり町のためになっていると思うんですけどもね。やっぱりそれだけじゃなく、もうやっていることですけれども朝の子どもたちの誘導だったりとか、声かけしてあげるとか、よそのほうでやっていることはやっているけれども、なにかしら高齢者の立場として行政の役に立てるそういったものは無いのかなと、私はそういうふうに考えていました。

(部会長) 何かしら町のために、行政のために役に立てるのではないのかなと。そのことで軽米の町がよくなっていくのではないのかなということをお話されたんだと思いますけれども。

(委員3) 老人クラブとかゲートボールとかパークゴルフとか、そういうのに出る人はだいたい決まっている。むしろ私たちのような年寄りで農業やっているものがそれしかやっていない。そういう人たちをどれだけ引っ張り出せるか、そういうのがいきいき部会かなと思いますけれども。少し話しが外れるかもしれませんが、今の町の農業を支えているのは60代、70代、80代の高齢者がほとんどです。その高齢者が農業だけをやっていて何の楽しみも無いような農業だとやる気もなくなってしまふ。今の若い人

たちが機械化機械化とやっていって、年寄りはおっちいってろ手を付けるな、という状態があるようです。そうなると言い方はあれですけども認知症とかそういうのも増えてくるようです。地区のほうでもそういうのが大分あって、私より2つか3つしか上でない人も認知症になっている話を聞く。結局年寄りから仕事を取ってしまうとそういう傾向が強いと思うんですよ。この間新聞に載っていたのですが、県の米の新しいオリジナル品種が出来たと、『銀河のしずく』というそうですが、いま種籾を取るために県南のほうでやっているそうですけれども。それで、農協で聞いたんですよ、その品種は県北に対してはどうなのですかと。そしたらあまりいい反応ではなかったんですよ。結局温度差からなにかあって、育つには育つけれども美味しい米はできないよという回答だった。だから、県のオリジナル品種を作っても、県北に対してはあまりメリットはなさそうです。で、県北で作れる美味しい米、それができれば軽米の、県北のブランド米としていければなど考えたのが、山内地区に県北農業研究センターがあるんですが、せっかくそういう施設があって、なぜ県北地区に適した米ができないのかというのを思うんです。何年前になるか、大冷害のときに『かけはし』を作ったでしょ、沖縄に持って行って。今は県内で『かけはし』を植えている人はゼロに近いそうです。今後県南ではほとんどが『銀河のしずく』に変わるだろうと言っていますが、県北試験場を何とか利用して、部会長さんとか町長さんとかに行ってもらって、何年かかるか分かりませんが今日明日の問題ではないと思うんです。そういういい米ができれば都市よりも昔の田んぼに出て作付けすると思うんですよ。県北に適した米が出れば軽米町なら軽米町のブランド米としてできるんじゃないかなと思うんですよ。私が農協に入る前に、晴山地区の米を、観音林の米、山内地区の米、晴山の米が全部『ふじみのり』だったんですよ。どこの地区の米がうまいかやってみようというのを農協の職員がやってみたそうです。炊き方も同じように炊いたと思うんですが、山内地区の堰ノ下の折爪の沢水が流れている田んぼ、あそこの米が一番美味しかったようです。やっぱりやり方によってはなにかが変わってくるのではないかなと思います。年寄りの人たちに何かがあるごとに全員集まれといったってそれは無理な話。出る人はだいたい決まってる。軽米には70を超えた人たちがよほどいると思うんですが、そういう人たちみんな引っ張り出すというのは無理だと思いますので、むしろそういうオリジナル品種を使って、軽米産というのが出るようなそういう形ができればかなと思います。そういうのやらないとうちの年寄りたちもほとんど外に出ていません。

(部会長) はい、大変貴重なご意見だったと思います。今の意見をまとめれる

か分かりませんが、簡単に言うと、組織に入っていない人、ゲートボールのチームとか仲間とか、あるいは老人クラブであるとかシルバー人材センターであるとか、仲間を持ってそこで活動している人はいいいけれども、それ以外の方々、特に農民が多いけれども、そういった方々にいかに生きがいを持たせていくかということが今の軽米に必要ではないのか、そのためにはどうしたらいいのか。老人クラブのことを話し合うのはいいけれども、そういったのに入れられない人たちをどうしていくか、やりがいのある仕事、農業であれば新しい品種を作っていただいて、それに没頭できるようなそういう環境を作っていけないものかなという、そういうことだと思うんですけどもね。一つのテーマに近いですよ、そう思いました。組織に入っていない人たちをどうしていくかというのは、これまでの会議でもあまり出されてこなかった新しい視点だと思います。大変ありがたいなと思ってましたけれども。

(委員3) 試験場のある海拔何メートルか分かりますか。おそらく調べたこと無いと思うんですけども、山内の試験場と円子地区とだいたい同じくらいだそうです。それはずっと前に試験場から聞いたんですけども、海拔いくらありますかと聞いたら、やはりすぐには答えられなかったんです。よく聞いたら243メートル前後なんだそうです。海拔がそれほどあるから、年間で比べると県南とかなりの差があると思います。そういう気候に適した米というのを作ることができれば、老人クラブとかに入っていなくても、そういうグループを作ることができると思うんです。これは私の夢のような話ですけども。

(部会長) いま農業の専門的な方からの、品種改良とか何とかになると私たちはなんのことだという話ですけども、そういう方向というのも大事なことだと、それによって、よしやるぞという人も出てくるんじゃないかという話だと思います。農業試験場に言って話をしましたやりましたよとすぐなるかはまた難しいとは思いますが、こういうのは長いことかけてやるものですから。

(委員4) 農業について全く分からないんですが、秋田とか北海道でも美味しいブランド米とかありますよね。そのあたりで気候や海拔など似た地域は無いんですか。県北にあった独自のものを作れば一番いいんでしょうけども。もう一つ、実際に農家をなさっているという話でしたけれども、若い人たちが機械を使って高齢者の方が自分たちの出番が無い活躍できないという趣旨の話をしていたのに、ブランド米を作ったからといってその人たちの楽しみや生きがいを作れるのかというところが疑問です。

(委員3) そこは私、TPPが一番の問題だと思うんですよ。あれで安い米が

入ってくればさらに我々が苦しむと思うんですよ。そこでブランド米を作って、県北産、軽米産ということになればある程度は対抗できるのではないかなと思うんです。むしろ養豚やっている方もTPPを歓迎しますという方もいます。多少は高くついても、肉の美味しさで勝負する、絶対に負けない、そういう気持ちでとりんでいる方も実際にいます。町内で一番植えているのは『あきたこまち』だと思うんですよ。他県産の米が実際には植えられている。今、北海道米が非常に人気があるのは、寒いところでも品種改良しながら取り組んでいるから美味しい米ができているんだと思うんです。だから、研究さえすれば何とかなるのかなと思います。

(部会長) 今のお話は確かに分かるような気はするんですけども、新しいブランド米を作る。ただこれは、日本中あっちこっちでやっているわけですよ。その中でこの軽米でブランド米を作ってそれらに対抗できるのかと考えたときに、私は非常に疑問視するわけです。夢をもつ、我々がそういう希望をもつということは大事なことだと思うんですけども、全国に対抗していくというのはかなり厳しいものがあると思って聞いていました。農業についても若い人たちが機械化を進めて、高齢者の方達がついていけなくなった時に、次の働き場というのも考えていかなければならないよというところで、この場はまずおさめていただいて、別の話題はいかがでしょうか。今の話題も大切ですよ、農業のほかにも老人クラブのような組織にどうやって入ってもらおうかという話も出ました。私たちがいきいきするだけでなく、いきいきしながら町のために役に立つようなこと、様々な立場からということですねご意見を出していただければいいなということなんですけれども。

(副部会長) 意見でなく質問ですみません。この意見、提言のところに老人クラブにいかに入会して楽しんでもらうかが大事だとあるんですが、いま町内には老人クラブがいくつあって、誰が入会の勧誘をするのか、自分が入りたいとなった時に誰に話をすればいいのか、そういったところが全然分からなくて、その老人クラブについてちょっとだけお話いただきたいなと思います。どこの地区がどういった活動をしているのか教えて下さい。

(委員5) それでは、私の地区の老人クラブの活動についてお話します。私の地区では役員会というのがあって、総会が近くなると役員会を何度も持つわけなんですけれども、その役員会で新会員の募集をみんな積極的にやってくださいと、やるわけなんですよね。そしてその他にも、途中でも入りたいという人があれば会費を納めてもらえればいつでも入れると。私の地区の老人クラブは年会費2,500円です。でも、総会で折などを頼むとそれだけで1,500円くらいかかってしまう。そうすると、実際に会として残るのは

一人あたり 1,000 円しかないわけですよ。だから、いろいろと活動するにも、そのときの活動分はその都度個人からお金をいただいてやっているというような形です。それで、老人クラブに入りたいという人は結構あるんですよ。あるんですけども、先ほどもお話しがありましたとおり、70代から80代の前半が今は一番の働き手と思うんですよ。百姓はもう辞めたという人もあるんですけども、田んぼなんかも借りたい人がいればどんどん貸している状況なんですよ。だから私たちの村でも耕作している生産者という人は昔に比べると5分の1なのか6分の1なのか、とにかく少なくなっているんですよ。そして70代でも土方仕事とか働かなければ生活するにも大変だということで働いているんですよ。なので、いずれ老人クラブに入りたい、老人クラブでも様々いろんな事をやっていますから、脇から見ると羨ましいなというのものもあるわけなんですよ。ただ、やはり生活もあることなんですよ。私たちのところはおかげさまで32名の会員があります。本当は入りたいんだけど入ってられない、まだ稼がないといけないという人もいます。そこらへんをいかにしたらいいものかということになると思います。

(部会長) はい。あと私の記憶だといま町内には18か19の老人クラブがありますかね。

(委員6) 今だと19。前は25あったんだけど、会長さんをできる人がなくて19に減りました。

(部会長) そうすると全体で何人くらいでしょうか。町の中は一つだと思うんですが、各地区にありますよね。そこに会長さんたちがいて集まって軽米町の老人クラブ連合会というのを作って、連合会の会長さんが県とつながっているという形になっている。だから単位老人クラブというのがあって、昔はもっとたくさんあったんですが減ってきている。だから、老人クラブの運動会などをやっても、かつては何チームも集まりましたが、最近は集まってこなくなっている。

(委員6) うちの地区だと25人くらいで、私が入ったときは35人くらいあったんだけど、90歳を超えてきてだんだんに旅行なども出れなくなってくる。現在は平均年齢は75歳くらい。

(委員5) いま、本当は頑張るべき若い人たちがなんとなく弱いんですよ。自分の仕事には一生懸命なんだろうけども、仕事だけで村のこととかなにか団体を作るとかいうのがなくて。だから、それこそ村の活性化や村のために尽くしているのが老人クラブではないかなという話をしているんですよ。

(部会長) ということですね。昔は青年会はあった婦人会はあった、子供会育

成会もありました。それぞれがそれぞれのところで活動していました。ところがいま残っているのは老人クラブ、そういうふうな状態になっている。老人クラブがなんとなく目立つわけですね。だから、老人クラブを何とか動かせばという、若い人たちがなかなか動けないところで老人クラブが頼りにされる場所もあるんじゃないかなと思いますよね。ただ、老人クラブも聞くところによりますと会員数が減ってきている、と。

(委員 7) 老人クラブも老人だけではやっていけないと思います。やはり 60 代 70 代の人が入ってきて後押ししていかないと、80 代 90 代の方は活性化といっても何もできません。親たちが入っていたときに会計だ何だと手伝ってそのまま自分も入ったんですけれども、三内のほうが無くなった時は補助金制度が始まったんです。ただ、なかなかその補助金の案を練れない、書類を作れない、これをもらうのにこんなにやるくらいなら、やめたほうが良いと言ってなくなったんです。だから、そういったのもできる若い人たちに支えてもらわなければ、活性化といってもなかなかできない。町としては高齢者のためにいろいろやっているんです。補助金を出したり、高齢者の足にしても、今日も私は町のバスに乗ってきましたけれども、まちなかのだいたいの場所を回れるバスが走っていました。それから、高齢者の集える場所の確保とついていきますけれども、社協さんでいまデイサービスというのを毎日やっているわけですね。だからどこにも出れない人はここに来て、お風呂に入ったりお話を聞いたり、いろいろなことを作ったりして、やっているのこの 3 つに関しては恵まれていると思うんです。そういったのも含めて今日テーマを決めなきゃならないということですよ。

(部会長) テーマを決めなければいけないんですけれども、まず前回までに皆さんから出してもらった意見や要望が出された中からまとめたのがこれだと思うんです。それでこの 4 つが出てきていますので、私たちは高齢者いきいき部会で高齢者ですからこういう意見が出てきていると思うんです。老人クラブの活性化、そのためには集まるための交通網の整備が必要だよ、場所も必要ですよ、そしてもっと交流を深めるため他市町村とも交流しましょうよという一連の流れでなっているような気がするんです。あとはこの、老人クラブ以外のところですね、私たち高齢者としてこういったことが町のためになっていくのか、こういった活動があるのか、そういったことをですね、せっかくですからこの集まった 10 数人の中で知恵を出し合っていければと思います。先ほどの話の中には書類を作れる人がいなかったから、そういった補助も受けられずになくなっていったというのがありました。昔は学校の先生がそういったのをやってくれていたんです。でも

地域に学校が無くなってそれをやってくれる人もいなくなった。そのときに、地域に人材が育っていなかったということなんです。それをどうやって解決していくかというのも今後の課題のような気はするんですけども。

(委員3) リーダーを養成していく、これが1番だと思います。政治家やっている人たちが地区のリーダーみたいにもなっているから、事務局のほうからも地元でこういう人を、というのを働きかけてほしいし、そういうテーマを出して見つけてもらおう。とにかくリーダーがなければ集まりましようといっても、今ある地区の人しか来ないと思ってる。

(委員1) いまリーダーがいなくて大変だ。学区民運動会は無くなる、なにもなくなくなったから班を作るにもてんでばらばらで集まれといっても集まる機会もないし、それが大変な状況だ。今年はお前やれ、来年は俺がやるからという話なんかもできなくなった。行政区や単位地区で集まるようなのがないと話し合いを持つのも難しい。一つの行政区だけでなにかをやるのは無理だ。町のほうにも行政区のことをちょっと見直してもらいたい。

(部会長) 学区民運動会もなくなるし何にもなくなると、そういつて集まることもなくなる。活性化も何もできないよということですけども。なにか一つ皆さんから何かありませんか。

(委員8) 町の方でふれあい共食事業とかっていろんな地区でやっていると思うんですけども、そういった活動はどうなんでしょう。

(部会長) 共食事業についてはいま町では13?14?の地区で実施していますか。町、健康福祉課のほうから予算をつけてもらって、各地区や行政区で組織を立ち上げて自分たちでやっているわけですよ。ただし、そのための準備というかお膳立てというかはあくまでも役場、そういった格好になっています。だから例えば老人クラブというのがすごく活動していますよね。それで先ほどから単位老人クラブにはリーダーがないといっていますけれども、それでも何とかもっているのは、正直なところ老人クラブの事務局は社会福祉協議会が持っているからなんです。

(委員1) やっぱり各行政区、うちの行政区なんかは区長と納税組合長、公民館長なんかと一緒にやるから、やはり一人では何もできない。

(部会長) 各行政区では無理でも2つ3つが一緒になって活動できればということですね。行政区長さんも毎年のように変わっていくわけですよ。その区長さんすらやりたがらないですよ。その頭になる、代表になるというのを嫌がる雰囲気というのが町内全域にありますよね。それがちょっと寂しいというか。

(委員2) 私がちょっと今考えるのは、花いっぱい運動というのは軽米を花いっぱいにしてしましようということで始まったでしょう。それが今は全然手付

かずの花壇もある。花なんてのは4・5人もいれば植えることができるんだから、できることからでも行政のほうからもお手伝いいただいて、地区ごとに花を決めたりして、一度には無理でも徐々に、苗作りは誰に頼むかとか地区ごとに相談しながら昔の花いっぱいのようにしていければいいんじゃないのかなと思います。

(委員1) やっぱり町から指導してもらわないと。

(委員2) 行政のほうから支えてもらわないと、どこの地区でも先立ちがなくなっているから。

(部会長) 役場職員というのは町の官僚ですからね。それだけ町や地区を引っ張っていく力量のある人たちだと思うんです。だから何とか手伝ってほしい、そういうことだと思うんです。厳しい言い方をしましたけれども、そういうことですよ。昔は学校の教頭先生とか、学校で組織を作ってやっていたけれど、それがなくなってしまったから役場さん何とか力を貸してくださいということになりますよね。

(委員2) やはり役場職員のほうで、年に1,2回地域を活性化させるためにはどうすればいいかというのを研修に行っているというのを聞いたことがあるんですが本当ですか。

(総務課長) ご質問がありましたのでお答えします。市町村アカデミーですとか様々な研修に参加して、やはり皆さんの地域だけじゃなく役場のほうもいろんな人材を育成していかなければということでそういった研修には出ています。それでいま役場の職員からも手伝ってもらえないかという話をいただいているんですけれども、実は今月号の広報にですね、生涯学習活動の推進員の紹介を載せています。それで、自分の集落の職員はだいたい知っていると思うんですが、職員がいない地区の方もいると思うんです。そういった地区の方々には、その名簿に載っている担当者や代表者にご連絡いただければ、全く知らないという話にはならないようにといま進めていますので、ご相談いただければなと思います。

(部会長) ありがとうございます。今の課長さんのお話で思い出したんですけども、地区の担当という人があったような気がしますよね。昔、学校でもこの町内にはこの先生、子ども会の担当の先生がいましたよね。そうやって一生懸命指導したんですよ。それと同じように、社会福祉協議会は老人クラブの事務局を持っていますし、民生児童委員会の事務局を持っています。それと同じで、事務局とまでは行かなくても役場職員が指導してくれるとすごく助かるなという話に今向いていますよね。というふうに捉えてよろしいですか。今はそこまでしなければ私たちの周りには組織を立ち上げて活動するだけの力量がなくなってきたということなんで

す。そこまで私たちの地域ではまとまる力、地域力といえいいでしょうか、が落ちてきているということですよね。なんとかこれを持ち上げるために老人クラブの活性化はもちろんだし、リーダーを養成しなければならない、そのリーダーを養成する中で各地区でそれぞれにあった組織を立ち上げて活性化するための行事でしょうかイベントなりをやって町のために尽くしていきましょうよというような方向になるのでしょうか。そういった組織ができることによって地域の中につながりができる。以前はつながりというのがあったんです。それを復活させましょうよということなんだと思いますけれども。行政区長にさまざまな仕事があるでしょ。それをお互いに人に任せないでみんなでやってみましょうよという。私の地区では区長というのはずっと決まっていまして、区長をずっと同じ人がやるんです。だから、継続性があるんです。それもよし悪しですよ、いつまでも同じ人に頼っているという、その人が死んだらどうなるんだという心配もあります。その後継者というののもちゃんと作っていかなければならない。そういったことでどのようにテーマを決定していったらいいのかなということなんですけれども、老人クラブの活性化というのが一つ、それから地域の活性化に必要なリーダーをいかに育てていくか、これは老人クラブに限ったことではないですよ、町内会でもいいし、青年会でもいいし。何でもいから工夫して、その中からリーダーのようなものが出てくればいいなと、そしてその地区にあった組織を作って、活性化につなげていくと。

(委員2) こういうのがいいと思うんですけど、今は夫婦揃って長生きしている人ばかりじゃないから、男の人でも料理をある程度習ったほうがいいんじゃないかなと。軽米は雑穀で一生懸命やっているから、少しでも町で雑穀を消費するような、ここに集まってきている人たちだけでも料理教室のようなものを作って、若い人たちや男性などもちょっと手伝ったりして、一緒に食べましょうと誘ってきたりして、食べるなり地域のいろんな事を話すなりすることで何かが開けてくるんじゃないかなと。雑穀の消費なんかも含めて、食べて気分が悪くなる人はいないからその中でなにか良い案も出てくるのではないですかね。

(部会長) 今お話しが出ましたが、軽米では雑穀の研究、料理研究なんかもしていますからね。すごく精力的に活動している例で、皆さんもそうなっていけばいいなと思うわけですが、それ以外にも様々ですね作っていただければいいのかなと思います。先ほどから話に出ています組織に入っていない人、なかなか入れない人、そういう人を救い上げるという意味ではやはり地区ごとですよ、町全体でといたら無理ですもんね。例えば町内会なら町内会、行政区なら行政区でそういった人たちを引き上げていく。そのため

のなにかをこう、なんと言ったらいいか実現していくためにはリーダーか何かが必要になるということで、やはり私たちに課せられた使命はリーダーの養成なのかなと思いますけれども。

(委員2) これも町全体では無理でしょうけれども、地域に分けて今日はごちそう作るからおいでくださいとかやれば、若い人もそうでしょうけどもあまり頭なら講義や勉強会のようなことをやれば来たいとは思わないから、交流会のようなところから始めればいいと思いますよね。

(部会長) 飲み会的なね、ざっくばらんに話し合える会、憂き晴らしの会、そういうのを誰かが中心になって声をかけてくれる、そういった人が簡単に言えばリーダーなわけですよ、そのためにちょっと声をかけてくれる書面というか文章化してくれる人がほしい、役場の人を手伝ってくればということ、もし地元で役場の人がいなくてもそういった事務ができる人がいれば積極的に活用していくということですよね。隠れたところに必ずいると思うんですが、上手く引き出していないだけじゃないかなと思うんです。

(委員3) 一番手っ取り早いのは飲み会を作って、そこから輪を広げていくのが一番いいと思うんです。うちの行政区の話ばかりで申し訳ないんですが、21件の戸数があるんですが、1年いっぱい顔を合わせなかった人もあるんですよ。だからいまだに花見会はやっています、もう40年になります。その花見会とかを昔の学区まで広げていければ、徐々に集まるんじゃないのかなと思います。それから青年会の先立ちなどもやったことがあるんですが、そのときの方々がちょうど今の70代だと思います。やはりその飲み会を作って人を集める、昔の学区は本当に良かったんですよまとまりがあって、一声かければすぐに集まってすぐ飲み会。学校でも親父さんたちはなにかあっても来なかったんですよ。そして校長先生たちと相談して焼肉なんかしたりして、それから夫婦でもくるようになったんですよ。だからまあ、飲み会なんかも大切なんじゃないかなと思うんですよ。

(部会長) いかにして人を集めるかということですね。飲み会が一番いいよという。ざっくばらんに好きなことしゃべりながらね、それが懇親を深める第一歩じゃないかなと思いますよね。まだご発言をされていない方、なんでもいいです。もうちょっと視点を変えてみてもいいんじゃないかなというようなことでもけっこうですので、出していただければありがたいんですが。私たち高齢者は、若い人たちが持っていないものを持っていますからね。だから若者と子どもたちにですね、この地域のよさを伝えていく義務があると思うんですよ。そういったことも我々の世代は意識していかなければならないんじゃないのかなと。孫や子に地域のよさを伝えてい

く。そういったことも私たちの役割なんじゃないのかなと勝手に思っているんです。若い人たちの邪魔にならない、目標になるような老人になるためにはどうすればいいか、さっきのように老人クラブで活動し、そして地域の中で声をかけて、活動していく。そういう高齢者であれば、俺も年取ったらああいう老人になりたいなと、目標にされるんじゃないのかなと勝手に思っているんですけどもね。あと、前にゲートボールとかそういった話も出ましたけれども、そういうのも必要だと思うんですよ、パークゴルフにしても。いま目の前に自分のやりたいことがあるというのはすごくいいことだと思うんですけどもね。そういう方向も皆さんから出していただいてもいいのかなと思いますけれども。4月の代表者会議で出されたんですけども、テーマが決まったら次は進め方ですね。グループ討議、で好きなことしゃべらせてみたらいいんじゃないか。全体の中だとなかなかしゃべりづらい人もいるのではないかとということでグループごとで話し合うのもいいんじゃないかなというのが一つ出ています。あとは今までと同じようにこういう形でというのがあります。

(委員9) これまでの経過を眺めていると、いい意見もあると思うんですけども漠然としすぎて、延々とこれは続いていくのではないかなというふうに思っています。私たちは仕事をしていく上でもより良い環境づくりや効率化を図るために様々な研修を受けていますが、いま日本で最も一般的になっているのは、グループではなく個々がこういうのがあるよという考えがあるわけですよ、その收拾がつかなくて漠然となっているわけで。私たちがやっている基本的な形というのは、一人ひとりに箇条書きとかで出してもらいます。こうしたらいいんじゃないかとかこういう課題があるというのを。最終的には問題点はなにか、ここがまずいいんじゃないかという形で出してもらいますけど、それが全部集まれば100ぐらいのカードになるかもしれないんですけど、それを整理していくんですよ。これとこれは似ている、これは全く一緒だというのを整理することによって、これはもう誰もが感じている課題だねとか、これは半分ぐらいの人が感じている課題だねとか、これは少数意見だけでも一人ではないから投げておくはもったいないとかですね、漠然としたところから焦点をつかんでいくんです。そうすると100あったバラバラの課題が4つとか5つにまとまってくるんですね。その中でカードの数が一番多かった意見が一番大事だろうという形で、そういうふうに絞り込んでいって、じゃあそれに対する方法は何だという次の次元にいて、いい意見が絞られていくというやり方なんですけれども、確かに3、4人でやるとみんなわいわい本音でしゃべりやすく、いい意見が出やすくなるというのは今の私の意見に似ていると

思います。そういった感じで絞り込んでいくというのが大事なのではないかなと思います。

(部会長) それは、テーマに沿ってということですか。それともテーマそのものを決めるのにということですか。

(委員9) 私たちがやるべきことは、さきほどおっしゃった何でもいいから一つやってみようという気持ちはすごく分かるんですが、私たちがやることではなくて、町に対して提言することが目的なわけですね。だからそんなに急ぐことではないと思うんですね。テーマはもちろん決めなければならぬんですけれども、高齢者いきいき部会が最終段階として、こういうことをしたほうがいいのかということをも町に提言しますというのが目標ですので、それまでの仮定は喧々諤々でもいいのではないかな、なにをやるのかを決めようかということとちょっと違うのではないかなと感じています。

(部会長) ということだそうですが、町に対して提言をすると、だからなにを提言するのかということになりますと、もうちょっとまだ絞らなきゃならないような気がするということですよ。私たちがなんとなく自分たちが何をしなきゃならないかというような格好になってしまったものですからね。町に提言というのがどういう形になるかちょっとまだわかりませんが、こういったことをやってもらいたいというようなことも一つあると思いますし、私たちはこういうふうにしたいので、どうかそこを支援してくださいというやり方、認めてくださいよという。先ほどから申しているとおり、老人クラブを活性化するためにはどうしたらいいかということや、リーダーを養成するためにはどうしたらいいかとか、人が集まるために場所はどうしたらいいかとか、この3つのテーマが大きなところかなと私としては思っているんですけれども。それをじゃあ今度お話し合いをするときにどういった形でしましょうかということで、3,4人のグループがいいということと、今のようにそれぞれ自分が考えていることをカードに書いてそれをまとめていって、これだな似ているのはこれだということと話し合っていく方法、私の場合はこのテーマを決めるということもだし、これからどういうふうに絞り込んでいったらいいかなという次のお話をどうしたらいいかということで、お願いしたいんですけれども。今お話いただいたこと、なるほどなと思ったんですよ。最近はどういった方法でやる場所結構ありますからね。では次回は、グループで話し合ったり、私はこう思っていますよというのをメモで書いたり、いろいろ試しながらということではどうでしょうか。それとテーマのほうは、事務局はいかがですか聞いていて。皆さんが期待していることと全然違うほうに進んでいた

ら私の仕事がダメなわけですから。

(町民生活課長) はい、貴重なご意見ありがとうございます。今おっしゃった手法というのもありますし、部会長のほうからお話いただいた手法もあるかと思います。で、今年度の部会ですが3回ということで予定しているものです。できれば今回、一つのテーマに絞って、それに対して高齢者いきいき部会の町長への提言をいただきたいなというところでございます。

(部会長) 一つに絞ってということですね。

(町民生活課長) まず、町長への提言としては3つ出ました、4つ出ましたでよろしいんですけども、テーマとすれば一つに絞っていただきたいというのがありました。

(部会長) はい、一つのテーマということですので。

(町民生活課長) まあでも、それはこだわらなくても大丈夫ですので。結果的には3つでも4つでも、はい。

(部会長) では、一つにするとしたら皆さんはどんなのがいいだろうと思えますか。意見を出していただければ。

(町民生活課長) ぜひ一つというわけではありませんので。

(部会長) これまでは様々出てきたんですが、もし一つとなった時には私だったらこんなのがいいんじゃないでしょうかという軽い気持ちで出していただけあればありがたいんですけども。

(委員9) ちょっと私の発言で場を混乱させてしまったなど反省して少しフォローしたいんですけども、今日のいろんな意見が出ていた中での共通意見としては、お年寄りだけではもうどうにもならないと。これに対して壮年者や青年たちがどのように関わって助けてくれるのか助けてもらいたいというところがすごく共通していると思いますので、一つの案としてはお年寄りが一番元気なわけだからお年寄りだけで何とかしようぜというのではなくて、お年寄りだけでは何とも出来ない部分が見えてきたので、壮年者や若者をいかに巻き込んでやっていくというのを立候補を待っているのか、それはもうどうにもならない時代なので例えば職員を分担して配置してもらおうとか、あと私は消防団にも入っていますので、本当に壮年の男性たちの集団で、この人たちが消防団活動だけで終わっているのは本当にもったいないと常日頃思っていますし、そういう点をあと2回か3回でどうしたら壮年者、若者たちを巻き込んでいけるのか、自発的なものに期待するのか職員や消防団として活動する人たちを引き込んでいくのかという取り組みを一つ提案させていただきたいと思います。

(部会長) ありがとうございます。今までの話の中でですね、老人たち、私たちだけではどうにもできない、リーダーシップが取れない状態になって

きているということ。ですから、壮年の人たち、若い人たちを巻き込んでいくかというご意見だったと思います。他にもお願いします。

(委員7) 子どもから高齢者まで各地区を盛り上げていくというか、テレビや新聞で毎日やっていますけれど、どこでも作付けしない田んぼとか畑がありますよね。それを各地区で、若い人たちから耕してもらって、こっちでは雑穀作ってこっちでは野菜作るとか、どこも同じものでなくていいからやってみて、そして蒔いてもらったなら年寄りには草取りするとか、管理は年寄りがする、そして収穫にはまたみんなが集まってとか、そうすることで地区全体の取り組みというかテレビや新聞ではやっていますけれども地区がまとまるのかなと思って私はみてました。これだったら軽米町の場合でできるのではないかなと。私も農業長年やっていますので、これだったらいいんじゃないかなと思ってみてました。

(委員2) 子どもたちとかおじいちゃんおばあちゃん、お父ちゃんお母ちゃんと一緒に田んぼでも畑でもいいでしょうけども、耕して作付けしてそれを収穫して一緒に喜んだらどうですかということだと感じました。

(部会長) あ、具体的な活動内容ですね、についてお話いただきました。今後のじゃあこれからどうして行こうかという具体的な話になった時に出していただければなど、ありがとうございます。先ほどの話にありましたように、私たちでは最近力がなくなってきて壮年の人たちを巻き込んでいかなければならないんだと、そういった方々の力を借りて我々もがんばっていくためにはどうすればいいのかということだったと思うんですよ。そういうことをこれから話題にしていってははどうでしょう。我々にはもう力がなないんだよ、というのを認めているわけです。

(委員2) そう言い切ってしまうのも、せつかくこのいきいき部会という名前なのに寂しい気もしますけど。

(部会長) 老人クラブの活性化何とかじゃなくて、私たちがこれから高齢者として町のために役に立っていくためには、高齢者の中からリーダーを養成しなくてはいけない、その高齢者の中のリーダーをいかにして作っていくかということ。そのために当局の応援も得るし、私たち自身でできることもあるし、みんなで知恵を出し合うし。そういう方向に持っていってはどうかと私は正直思ったんです。一つに絞ってといわれたときに。あくまでも高齢者いきいき部会ですから。

(委員2) 先ほど高齢者だけでは力がなから若者と一緒になってやっという話でしたよね。

(委員9) ちょっと私の言葉が足りなかったのか誤解を受けているかもしれないんですが、お年寄りの力がなくなったから消防団が消防活動以外にも町

を活性化するために立ち上がれというのではなくてですね、お年寄りたちが主人公で、そのお年寄りたちが自分たちでは力が落ちてきたので本来のパワーを戻すために役場職員とか消防団とかとの交流を持ってお年寄りたちを従来の2,30年前の元気な状態に戻すために誰が力になれるのかなというのを言いたかったのが、主役を変えようというのでは全然ありませんので。

(委員2) それに関連してちょっと考えたことは、どこにも消防団はあるからね、だからその地域地域で例えば高齢者の方達が、消防団が町の生命財産を守ってくれてるから、今日はいっぱい飲ませるしひつつみも食べさせるからおいで、というように消防団を招いて高齢者の人たちが一緒になって交流をしながらだんだんと手助けしてもらおうとか、できないものはやってもらったり高齢者にできることはしてあげたりということがあればいいのかなと思いました。

(部会長) 我々が活動していく中でそういうことも必要だよねということですよ。そのことによって消防団の活動から、青年団としての活動がですね、そういうふうな方向に引き出していければすごくいいなと思いますし。というわけでテーマのほうはどうしましょう。高齢者としてはどうしていくか、支援者としてはどうしていくか。この支援者というのは役場の職員だったり事務局のようなものをやってくれる人、そういった人たちがいれば我々がたくさん活動できるよという話が先ほどたくさんでましたので。

(委員2) やっぱりこの百人委員会のメンバーが先頭になってやっていかなきゃならないことじゃないですか。そのための百人委員会じゃないですか。

(部会長) ここにいる人はみんなリーダーなんですよね。

(委員10) 全然発言していなかったから最後に一つ。高齢者いきいき部会、ということは高齢者の方のよさを見つけるというか人格を認めるという感じになっていくわけですよ。そうしますと、認め合うためにはやはり集会というか集まる場が必要だし、そこで評価してあげるというかそういう場にしていかなきゃいけない。そうすると、参加したくなる場というのは、どういう場所だろうと。エリアじゃなくて、どういう集まりをもったらそういう場になるんだろうというのをずっと考えていたんですが、そうしたら飲み会食事という意見が出てきてそれはいいと思ったんですが、そのお金はどこから出るんだろうということですね。高齢者の方が少し働いて、お金をためて食べるのがいいのか、町から全部もらって食べるのがいいのかというのを考えるようになってきて、要するにやはりリーダーが必要だなという結論で、部会長さんの言うリーダーを育てて、そしてまた意見を集約していくということのほうに近道かなと思ったので、テーマはリーダー

をいかに作るかというようなものがあればそれに賛成したいと思います。
(部会長) はい、ありがとうございます。今そういうお話が出てきました、リーダーをいかに養成していくかという。私たちがリーダーだという自覚を持つ必要がある。ここに集まっているけれども自分以外の誰かがやってくれる、じゃなくて、やはりここにいる人たちはみんなそれなりの立場にいると思うので、自覚を持ちながらさらに多くのリーダーを育てていく、そのためにはまずどうすれば人が集まるのか、というようなことでいいですか。そして次回はグループに分けて話し合ったり、メモを取り合いながら進めていければと思います。

(2) 第2回部会の進め方と開催日時について

(部会長) それで次回は8月でよろしいですか。

(町民生活課長) はい、次回は8月を予定しているところです。そして事務局の案ですけれども、研修会を予定しているところでございます。そして研修会の日程ですが・・・。

(総務課職員) 後ろのほうから失礼します。資料の一番最後をご覧ください。軽米町百人委員会年間スケジュール(案)となっておりますけれども、この中の部会3回と全体会、そして研修会が委員の皆さんにぜひとも出席いただきたいものになっています。研修会と第2回部会が同じ時期に色をつけているんですけれども、研修会というのは部会ごとではなく、委員会全体に共通する内容で講演をお願いしたいと考えております。ですので、皆さんそれぞれにご都合あるかと思いますが、一人でも多くの人に集まってもらうためには土曜日や日曜日といった暦の上では休日でお声がけできればいいのかなというところで、講演会は土日の開催を予定しております。期日についてはまだはっきりお答えできないんですけども。それでですね、せっかく休日に集まっていただけということと、年間で部会と全体会だけでも4回集まっていただけかないといけないですので、研修会をまた別の日になると皆さんも大変なのかなというところで、勝手にこちらで考えたことなんですけれども講演会の後にそのまま第2回部会を開けたほうがその期間は1回集まるだけでいいのかなというのを事務局のほうでは考えていました。土日に講演会をとということなんです、土日に集まれない方が多い部会ですと部会はまた平日に改めてやりましょうという案が出て結構だと思いますので、そこを各部会ごとで同日開催にするか別の日にするかということだけ決めてもらえればと思っていました。

(部会長) はい。日程見てもらえば分かると思いますけれども、講演会と第2回が同じ8月の下旬にあります。これを同じ日にやっていいかどうかとい

うところですね。いかがでしょうか。この研修会というのは講師先生を招いて百人委員会全体に関する進め方や在り方というのについてお話いただいて、部会の参考にするというこのようですので、同日、一緒にいいですか、別々がいいですか。今からちょっと分からないなというところもあるかも知れないんですけども。

(委員 2) 一緒の方が、かえってお話聞いた後の方が盛り上がるんじゃないですかね。

(部会長) 忘れないうちにね。同日開催の方がいいのではないかという意見です。例えば講演会が1時間半くらいだとして、そのあと1時間半くらい。ということでいいですか、同日開催ということで。日にちは8月の下旬から9月の上旬で。

(委員 10) お昼をはさんだりはしないよね。

(町民生活課長) そのことについては、高齢者いきいき部会からの意見ということで一旦お預かりしまして、他の部会の意見も聞きながら調整させていただきます。高齢者いきいき部会としてはお昼ははさまず、できれば午後からでお願いしたいということですね。

(部会長) はい、そういうことで次回お願いいたします。